

(3) 放流用人工種苗の保菌検査

中城 岳・隅川 和・高月 明

(1) 目的

アユの放流用人工種苗には、天然アユ資源に対する防疫上の観点から、疾病の原因菌を保菌していないことが求められる。そこで、2023 年度に生産した県産人工種苗において、細菌性冷水病の原因菌 *Flavobacterium psychrophilum* (以下、*F. psychrophilum*) 及びエドワジエラ・イクタルリ感染症の原因菌 *Edwardsiella ictaluri* (以下、*E. ictaluri*) の保菌検査を実施した。

(2) 材料と方法

放流前の 2023 年 1 月 18 日、1 月 26 日、2 月 13 日、3 月 8 日、3 月 9 日、10 月 13 日に、全生産群 8 池において、放流前に 1 池あたり 60 尾を無作為抽出し、10 尾ずつを 1 ロットとして 1 池あたり 6 ロット、合計 74 ロットについて、*F. psychrophilum* 及び *E. ictaluri* の保菌検査を実施した。なお、検査手法は「アユ疾病に関する防疫指針（アユ疾病対策協議会，2011）」に従った。

(3) 結果と考察

保菌検査を実施したロットのいずれからとも、*F. psychrophilum* 及び *E. ictaluri* は検出されなかった。

【引用文献】

アユ疾病対策協議会（2011）アユ疾病に関する防疫指針.